

## 研究課題「特別な教育的ニーズがある幼児の余暇活動の好みと社会生活能力の関係」に関する情報公開

本研究は、「幼児期における余暇活動の現状と余暇活動が社会生活能力に与える影響—定型発達児と特別なニーズのある児の違い—(承認番号:19-604)」(以下、一次研究)で得られた既存情報を使用して実施されます。一次研究の対象は以下に示します。

### 1. 一次研究の対象情報

2019年11月14日から2020年2月14日の間に、日進市発達支援センターすくすく園、中津川市児童発達支援センターつくしんぼ、美濃加茂市児童発達支援センターカナリヤの家、名古屋市植田幼稚園、猪高幼稚園、日進市北部保育園、新ラ田保育園、南部保育園、北新田保育園、中部保育園、西部保育園、東部保育園、梅森保育園にて養育者様に回答していただいたアンケート調査の情報(一次研究の情報)。

### 2. 本研究の目的・方法・研究期間

#### <目的>

特別な教育的ニーズをもつ幼児期のお子様が好んで参加している余暇活動の特徴を知り、好きな余暇活動への参加が社会生活能力の育みに及ぼす影響について明らかにします。

#### <意義>

お子様が好んで参加する余暇活動や、それらに参加する様子を捉えることは、お子様がもつ本来の能力や育つ力を理解することにつながります。そして、それらの知見は、お子様の社会参加に対する療育と作業療法実践の手立てになると考えます。

#### <方法>

##### (1) 一次研究で得られた情報の二次利用について

一次研究の情報収集期間である2019年11月14日から2020年2月14日において養育者様にご回答いただきました、「お子様についてのアンケート」、「対人コミュニケーション質問紙」、「お子様の余暇活動に関するアンケート」、「新版S-M社会生活能力検査」から得られた情報の一部を二次利用させていただきます。

##### (2) 解析方法

「お子様の余暇活動に関するアンケート」に含まれる33項目の余暇活動について、その特徴からカテゴリに分類し、カテゴリ別の好みの値を算出します。その結果から、お子様の余暇活動の好みや参加における実態を余暇活動の特徴に基づいて解析します。さらに、「新版S-M社会生活能力検査」や「対人コミュニケーション質問紙」の結果について、社会生活能力やコミュニケーション能力と好む余暇活動の関係を分

析し、好きな余暇活動に参加することが社会生活能力の育みに及ぼす影響についての調査を行います。

<研究期間>

実施承認日～2022年3月31日

### 3. 研究に用いる情報の種類

<研究に用いる情報>

以下のアンケート①～④に回答いただいた内容

- ①「お子様についてのアンケート」
- ②「対人コミュニケーション質問紙」
- ③「お子様の余暇活動に関するアンケート」
- ④「新版 S-M 社会生活能力検査」

<個人情報の保護について>

本研究のために二次利用させていただくアンケート情報は、一次研究にて既に匿名化され、アンケートの内容を連結することによる個人の特定もできないよう十分に配慮されています。

解析のために二次利用した情報や解析結果は調査終了後速やかに破棄いたします。

<本研究の解析情報の保管について>

解析に使用させていただく情報及び二次利用から得た解析結果は、名古屋大学大学院医学系研究科内の鍵のかかるロッカーにて保管します。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

<連絡先>

研究責任者：名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻

教授 辛島 千恵子

e-mail : karashim@met.nagoya-u.ac.jp

研究実施者

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻

博士課程（前期課程） 1年 磯貝 萌々子